

実践事例

学校名

1 実践の概要

(1) 取り組みのねらい

早めに子どもの変化を把握し対応することによって、深刻な問題へ発展するのを防止するとともに、子どもたちの中に、「いじめはいけないことである」という意識を強く印象づける。

(2) 取り組みの内容

① いじめ対策のプロジェクトチーム「ベストフレンド」を立ち上げた。月一度、学年会の時にブロックで集まり、情報交換を行う。そして、その後にベストフレンドの会議を行い共通理解を図るとともに、対応策を話し合う。

② 「心のふれあいカード」(いじめに関するアンケート)を学期に1回実施する。アンケートの結果は、ブロック学年会の時に全員でアンケートに書かれてある内容を確認し合うとともに、情報交換を行う。そして、集計結果を生徒指導部に提出し、職員会議や生徒指導全体協議会の時にその結果を報告する。

アンケートに、「いじめにあっている」や「困ったことがある」と書いた子に対しては素早く教育相談を行い指導にあたる。

③ 昼休みなどの長い休み時間に、ベストフレンドのメンバーや 学年を中心に校舎を見回り、孤立している児童がいないか、困っている児童がいないかをチェックする。

2 実践の成果(態度・心情面やいじめの解決など)

① 複数の目で子どもたちを見ることによって、担任が気づかない出来事やちょっとした変化を担任が知ることができるようになってきた。このような話し合いを定期的に行うことによって、教師が日頃からいじめはないかという気持ちで子どもに接するようになってきている。

また、学級内の問題を担任一人が抱え込んだり、隠したりすることなくオープンにすることができる。

② 「心のふれあいカード」を実施することにより、子どもたちの実態を把握できる。その子だけでなく、他の友達(他のクラスも)についての情報も得ることができるので、本人は「いじめられている」と答えなくても、その子がいじめにあっていたり、困っていたりすることが把握できる。

学級は楽しいか、学校を休みたいと思うかという質問から、クラスの雰囲気

分かる。マイナスの回答が多い場合は、担任と話し合い学級経営や授業の改善を行ってもらおう。また、アンケートをとること自体が、いじめ防止の手だての一つになっている。

- ③ 昼休みに校舎を見回ることにより、教師がいない時の子どもたちの実態が分かるとともに、一人ぼっちでいる子も把握することができる。困っている児童がいた場合には、その場ですぐ指導することができ、教師が知らないでいるということとをできるだけ少なくできそうである。

3 取り組みの評価（対応についての評価）

- 学校全体で組織的に取り組んでいることはとても有効である。
- 教師間にもいじめに対する意識の違いがあることは事実である。しかし、その意識の違いが対応の違いにならないように、ブロック学年会・ベストフレンドによる話し合いを行っている。

4 実践に関する資料

心のふれあいカード（3～6年生用）

()年()組 なまえ()

1 あなたは、今の学年になっていじめにあいましたか、または、いじめにあっていますか。
(はい いいえ)

① “はい”と答えた人に聞きます。“だれ”に、“何”をされましたか？

② そのいじめについて、どうしていますか。
ア だれにも言わないで、だましている。それはなぜですか？
ア まだいじめられるから
イ そうだんしても、よく話を聞いてくれない。
ウ その他()

イ おうちの人にそうだんしている。そうだんしたあと、どうなりましたか？
ア いじめられなくなった。
イ いじめは続いている。
ウ その他()

ウ 先生にそうだんしている。そうだんしたあと、どうなりましたか？
ア いじめられなくなった。
イ いじめは続いている。
ウ その他()

エ 友達にそうだんしている。 オ 電話そうだんしている。
カ その他

2 進んであいさつをしていますか。 (はい いいえ)

3 まっすぐ家に帰っていますか。 (はい いいえ)

4 友達とけんかをしますか。 (はい いいえ)

5 なかよしの友達がありますか。 (はい いいえ)

○だれですか。

6 学級が楽しいですか。 (はい いいえ)

○それは、なぜですか。

7 学校を休みたいと思うことがありますか。 (はい いいえ)

8 いじめにあっている友達を知っていますか。(ア 知っている イ 知らない)

知っている人に聞きます。だれがいじめにあっていますか。“名前”と“どんなこと”をされているか書いてください。

8 こまっていることがあったら、書いてください。

○ たとえば、「いやな思いをしたこと」「なやんでいること」「助けてほしいこと」など、なんでもいいです。

※ 心のふれあいカード（3～6年生用）